「夢を育み、感動・笑顔・歌声あふれる学校」

東野小学校だより 10月号

学校教育目標
おおらかで　たくましく
進んで学ぶ子
地域とともに生きる子

新座市立東野小学校
令和８年　９月３０日（水）
TEL:048-479-7280　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ
FAX:048-482-6794　QR ｺｰﾄﾞ →

「ありがとう」の心を大切に

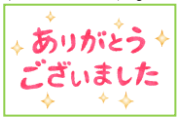
校長　齋藤　伸一

９月１６日（水）から１７日（木）にかけて、６年生と修学旅行に行ってきました。昨今の長雨の影響で、１日目は雨天となったため、源泉の見学と戦場ヶ原のハイキングを中止し、大幅に予定を変更して実施しました。足湯体験、日光湯元ビジターセンターの見学、湯滝・華厳の滝の見学、日光自然博物館の見学を行いました。２日目は一転して天候にも恵まれ、予定どおり、日光江戸村での活動と日光東照宮の見学を行いました。

この２日間、添乗員さんをはじめ、バスの運転手さん、ガイドさん、宿泊先のホテルの方々、そして、見学先で説明してくださった方々など、多くの方々にお世話になりました。そうした皆様に対して、６年生は丁寧に挨拶や返事をし、話を聴くときには相手の方を見て、耳を傾けていました。ふくべ作り体験では、教えてくださった講師の先生からお褒めの言葉をいただきました。そして、様々な場面で「ありがとうございました」と感謝の気持ちをきちんと相手に伝えることができていました。その姿を見て、子供たちの大きな成長を感じました。

さて、１０月の校長講話として以下の内容を子供たちに話しました。

今日は、まず、みなさんに問題を出します。「寒い」の反対はなんでしょうか？　そう「暑い」です。
では、「大きい」の反対はなんでしょうか？　これも簡単ですね。正解は「小さい」です。
それでは、「ありがとう」の反対はなんでしょうか？　これは難しいですね。正解は「当たり前」です。
実は「ありがとう」を漢字で書くと「有り難う」になります。「有る」ことが「難しい」ということです。
つまり、「滅多にない」「珍しくて貴重だ」という意味です。
だから「有り難う」の反対は「当たり前」になるということです。
みなさんは、どんなときに「ありがとう」と言っていますか？
何か特別なことをしてもらったときや助けてもらったときに「ありがとう」と言いますね。
校長先生は、９月１６日から２日間、６年生と修学旅行に行ってきました。移動先に到着して
バスから降りるとき、運転手さんに「ありがとうございました」と言っている子が何人もいました。
宿泊したホテルを出発するときも、ホテルの方に「ありがとうございました」と言っていました。
お世話になった方々に、「ありがとうございました」と言っている６年生の姿を見たとき、
校長先生は「とてもすてきだなあ」と感じました。
でも、バスやホテルにはお金を払っているのだから、つまり、自分たちはお客さんなのだから、
運転手さんやホテルの方に「ありがとうございました」と言う必要はないという考え方もあります。
みなさんはどう思うでしょうか。
校長先生は、お客さんなのだから、してもらうのが「当たり前」だと考えるのは、何か違うと思います。
～ 中略 ～
「当たり前」と思っていることも、実はたくさんの人に支えられていて、成り立っています。だからこそ、
してもらったことに対して「ありがとう」と言って、感謝の気持ちを伝える必要があると思います。
～ 後略 ～



私たちは、日常生活の中で、たくさんのことを「当たり前」として過ごしています。例えば、ご飯を食べること、布団やベッドで眠ること、学校へ通うこと、友だちと学んだり遊んだりすること、家族と一緒に生活することなどです。自分が今生きていることも当たり前で、特別なことだとは、なかなか思えなくなっているかもしれません。しかし、毎日の生活は、多くの人の支えによって成り立っています。食事を用意してくれる家族、学校までの安全を見守ってくださる地域の方々、授業や学校生活を支えてくださる教職員など、周りにはたくさんの人の思いや努力があります。それらを「してもらって当然」「当たり前」と考えてしまうと、支えてくれている人の存在に気付けなくなってしまいます。「ありがとう」は、相手の働きや思いに気付き、「あなたのおかげです」と伝える言葉です。感謝の気持ちをもつと、身の回りの人や物を大切にする心が育ちます。そして、言葉にして伝えることで、相手も「役に立ててよかった」と温かな気持ちになります。

６年生には、修学旅行で見せた丁寧な挨拶と感謝の心を、これからの学校生活でも大切にしてほしいと思います。そして、他の学年の子供たちにも、身近な人の支えに気付き、「ありがとう」を伝えられる人になってほしいと願っています。